



子どもの身体知の蓄積と開発の提案

—優れた指導者に頼らず環境の持つ可能性を模索します。—

教育学部児童教育学科 教授 山西 正記

キーワード

動きづくり, 学習の場, コーディネーション能力の開発

該当するSDGs

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

子どもの動きを開発する・刺激する環境変数について研究をしています。子どもたちが活動している空間を例にすれば、その空間に何気ない遊具や教具を一つ加えるだけで、子どもの活動の仕方(環境との関わり方)が変わります。また、その空間に呈示する音響 BGM のテンポや音色を変えるだけでも、子どもの身体活動量や学習頻度に変化が生じます。昔は、野山を駆け回り、木登りや泥んこ遊びに興じる中で、身体の上手な使い方を獲得していたとされています。私たちの身体がエコロジカルなシステムとして環境と密接に関わりをもって動きが学習されているとするなら、現在の子どもたちの不器用さは近代化を押し進めてきた我々大人の責任なのかもしれません。



アイデアと工夫を総動員して、創られる「学習の場」

2 連携可能性のある研究分野, 又は, これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

1. 子どもの動きづくりに資する学習環境や活動空間の構想と検証(運動の質と学習)
2. 子どもが動きたくするような学習内容(教材)の提案と検討(身体活動量と意欲)

これまでの連携実績

1. 福山市体育振興事業団 福山市スポーツ指導者養成講習会『スポーツ指導方法論』:講師
2. 福山市小学校学区における少年スポーツ指導者を対象とした研修会:講師
3. 福山市学校教育研究団体連絡協議会 中学校保健体育研究会 第二回部会:研修会講師